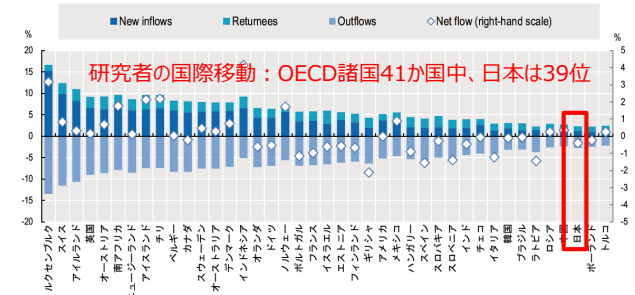


## 背景・課題

- 新型コロナウイルス感染症の世界的流行や近年の国際情勢、世界秩序の再編等により予測困難な状況に直面する中、我が国にとって先端研究の国際ネットワーク強化が喫緊の課題となっている。
- 我が国の研究力を強化するには世界最先端の研究現場に合流し、**トップレベル研究チームによる国際共同研究と若手の長期海外派遣を強力に推進することが急務**である。



## 事業内容

科研費「国際先導研究」により、高い研究実績と国際ネットワークを有するトップレベル研究者が率いる優秀な研究チームによる、海外トップレベル研究チームとの**国際共同研究を強力に支援**する。さらに、若手（ポストドクター・大学院生）の参画を要件とし、**長期の海外派遣・交流や自立支援**を行うことにより、**世界を舞台に戦う優秀な若手研究者の育成を推進**。

### 科研費「国際先導研究」による支援

#### 研究種目概要

研究期間 : 7年（最大10年まで延長可）  
 研究費総額 : 最大5億円（直接経費・基金）  
 採択予定件数 : 約15件

質の高い国際共著論文の産出

ハイレベルな国際共同研究の推進

リスクを恐れず挑戦し続ける創発研究者

世界を舞台に戦う優秀な若手研究者の育成

#### 研究代表者の要件

国際共同研究の高い実績を有するPI  
 - 5年以内のTop10%国際共著論文実績  
 - スポークスパーソン経験 など

若手育成の経費を別枠で措置  
 - PD・院生の人数に応じた研究環境整備費  
 - テニユアで採用された若手の研究費

PD・院生のカウンターパートの研究チームへの長期（2～3年）の海外派遣・交流／自立支援

○海外派遣人数（事業全体）  
 長期：約225人（15件×15人）  
 短期：約1,600人（15件×のべ105人）

高い研究実績を有するPIが率いる海外トップレベル研究チーム  
 （複数の研究チームとの共同研究も可）

トップレベル研究チーム  
 ※約20～40名の研究チームを想定  
 （PD・院生が約8割）

#### 審査体制

- ・海外レフェリーを含む、国際共同研究の経験・識見をもつ審査チーム
- ・学術専門性だけでなく、先進性・将来性・優位性も評価
- ・当該研究への研究機関による支援も審査の対象

PDはPIの下で自らテーマを設定しメンターの支援を受け研究に従事

資金の分担を前提

## 背景・課題

- 国際的な頭脳獲得競争が激化する中、**優れた研究人材が世界中から集う“国際頭脳循環のハブ”**となる研究拠点の更なる強化が必要不可欠。
- WPI開始から15年間を経て、世界トップクラスの機関と並ぶ、卓越した研究力と優れた国際研究環境を有する**世界から「目に見える拠点」を構築**。大学等に研究マネジメントや国際研究環境の構築手法等のグッドプラクティスが蓄積し、**WPIは極めて高い実績とレピュテーションを有している**。
- 世界の研究大学が大きな変革期を迎えるなか、日本の大学・研究機関全体を「公共財」と捉え、**世界トップレベルの基礎科学の頭脳循環を10~20年先を見据えた視座から飛躍・発展**させていくことが必要。

(WPIにおいて、COVID-19の拡大により停滞した国際頭脳循環を活性化するため、新ミッションの下、2022年度に整備する新規拠点も含め、国際頭脳循環のハブ拠点形成を計画的・継続的に推進。(統合イノベーション戦略2022(令和4年6月3日 閣議決定))

## 事業概要

**3つのミッション**を掲げ、大学等への集中的な支援により**研究システム改革等の取組を促進**し、高度に国際化された研究環境と世界トップレベルの研究水準を誇る**国際研究拠点の充実・強化**を図る。

### 3つのミッション

世界を先導する卓越研究と国際的地位の確立

国際的な研究環境と組織改革

次代を先導する価値創造

【これまでの成果】

当初採択5拠点(2007年度~)の輩出論文数に占めるTop10%論文数の割合も高水準(概ね20~25%)を維持

外国人研究者が常時3割程度以上所属する**高度に国際化された研究環境**を実現(ポストは全て国際公募)

民間企業や財団等から**大型の寄附金・支援金**を獲得

例: 大阪大学IFReCと製薬企業2社の包括連携契約(10年で100億円+α)  
東京大学Kavli IPMUは米国カリ財団からの約22.5億円の寄附により基金を造成

### 【令和5年度概算要求のポイント】

現行のWPIを**発展させ、以下の制度を創設**(※詳細は右参照)

- **WPI 2.0 (アライアンス方式)** : 令和5年度 新規1拠点  
「アンダーワンルーフ」を堅持しつつ、複数機関の強固な組織連携により日本発で主導する新しい学術領域を創出。
- **WPI CORE (伴走成長方式)** : 令和5年度 新規3拠点  
当初段階では現行のWPIの7割程度の要求要件としつつ、適切なステージゲート審査の上、段階的に拠点形成を推進。
- **WPIの持続可能な成長を促す仕掛け(持続的発展経費)** :  
10年のWPI補助支援の後も、大学等が予見性をもって拠点の高い活動レベルを維持、発展させる仕組みをビルトイン。

## 現行のWPI拠点一覧

※令和4年4月時点



## 新たに創設する制度

### ◆ WPI 2.0 (アライアンス方式)

- 予算規模 1 アライアンスあたり **15億円/年 × 10年間**
- 対象機関 **複数機関(原則2機関、最大3機関)のアライアンス体制**による提案  
**海外機関との拠点組織レベルでの研究連携体制**の構築が必須  
(**複数ラボの相互設置等**)
- 拠点規模 **トップレベルPI : 10~20人以上**、拠点人員 : **総勢200人以上**
- 対象領域 **基礎科学分野において、日本発で主導する新しい学術領域を創出**

### ◆ WPI CORE (伴走成長方式)

- 予算規模 **5年目までにステージゲート審査を行いステップアップ**  
- ステップアップ前 : **5億円/年 × 最長5年目まで**  
- ステップアップ後 : **7億円/年 × 残期間(計10年間)**
- 対象機関 1 機関による提案
- 拠点規模 **ステージに応じた拠点規模を設定**  
- ステップアップ前 **トップレベルPI : 5~7人以上**、拠点人員 : **総勢50人以上**  
- ステップアップ後 **トップレベルPI : 7~10人以上**、拠点人員 : **総勢70~100人以上**
- 対象領域 **基礎研究分野で、原則として異分野を融合させ、将来の重要な学問分野の創造が期待される領域**

## (WPI 2.0、WPI COREに共通する事業スキーム等)

- 外国人比率等 研究者の**30%以上が外国からの研究者**  
事務・研究支援体制まで**英語が標準環境**
- 事業評価 ノーベル賞受賞者や著名外国人研究者で構成されるプログラム委員会やPD・POIによる**丁寧かつきめ細やかな進捗管理・成果分析**を実施
- 支援対象経費 人件費、事業推進費、旅費、設備備品費等 ※**研究プロジェクト費は除く**

### ◆ WPIの持続可能な成長を促す仕掛け(持続的発展経費)

中間・最終審査の結果に応じて設定された**「上限額」**及び**「算定ルール」**をもとに、期間中の外部資金の獲得額により算定された**一定額を継続的に支援**。**拠点の知的アセットの価値化を進め、拠点の持続的成長とシステム改革を促す。**

※令和9年度より本経費が発生する予定。

# 參考資料